

10月月例労働経済報告のポイント

一般経済

- 景気は、持ち直してきているが、自律性に乏しく、失業率が高水準にあるなど依然として厳しい状況にある。
 - ・ 輸出は、アジア向けを中心に、増加している。生産は、持ち直している。
 - ・ 企業収益は、大幅な減少が続いているが、そのテンポは緩やかになっている。設備投資は、減少している。
 - ・ 企業の業況判断は、依然として厳しい状況にあるものの、全体として持ち直しの動きが続いている。ただし、中小企業ではそのテンポは遅い。
 - ・ 雇用情勢は、悪化傾向が続いており、極めて厳しい状況にある。
 - ・ 個人消費は、持ち直しの動きが続いている。
- 先行きについては、当面、雇用情勢が悪化傾向で推移するものの、海外経済の改善などを背景に、景気の持ち直し傾向が続くことが期待される。一方、雇用情勢の一層の悪化や海外景気の下振れ懸念、金融資本市場の変動の影響など、景気を下押しするリスクが存在することに留意する必要がある。

労働経済

- 労働経済面をみると、雇用情勢は、悪化傾向が続いており、極めて厳しい状況にある。
 - ・ 8月の完全失業率（季節調整値）は5.5%で、7ヶ月ぶりに前月差で低下（0.2ポイント低下）。
 - ・ 労働力人口（原数値）は6,657万人で、6ヶ月連続で前年同月差で減少（20万人減）。
 - ・ 就業者数（原数値）は6,296万人で、19ヶ月連続で前年同月差で減少（109万人減）。
 - ・ 雇用者数（原数値）は5,465万人で、6ヶ月連続で前年同月差で減少（74万人減）。
 - ・ 有効求人倍率（季節調整値）は、0.42倍（前月と同水準）。
 - ・ 新規求人倍率（季節調整値）は、0.76倍（前月差0.01ポイント低下）。
 - ・ 現金給与総額（原数値・確報）は274,324円で、前年同月比2.7%減。